

平成二十七年 第一回入学試験問題

国語

(五〇分、一〇〇点)

受験についての注意

- 一、試験開始のベルが鳴るまで、問題用紙を開かないでください。
- 二、問題は  ～  まであります。
- 三、各問題とも、解答は解答用紙(別紙)の所定の欄に記入してください。
- 四、解答用紙には受験番号、名前を必ず記入し、最後にもう一度確認してください。
- 五、解答用紙だけ回収しますから、問題用紙は持ち帰ってください。
- 六、指示がない限り、句読点や記号などは一字として数えます。
- 七、正しく読めるように、読みがなをふったところがあります。

□  
次の文章は「空の星が落ちてきたようだった」で始まる小説の一部です。「私」は祖母が仕立てた浴衣を着て、父母と四人で「蛍狩り（蛍を見に行くこと）」に出かけた場面です。これを読んで、後の問いに答えなさい。

糊のきいた浴衣は肌はだにすれるように固くて、いいにおいがした。紙の着物をまとっているようで、動きたびにいたるところから風がはいつてきた。白地に小波こなみのような細い線の模様ようばうが染めてあった。父に手招きされ、私は光の点に跳とびついた。ゆっくりと下降してきた光の破線は、私の手に触れない高みから再び上昇をはじめた。生長する線の先端せんたんに向かって父の手が素早く横に走った。「とったぞ。とったぞ。」

いいながら父は掌てのひらを開いた。闇やみの底から浮かんできたその光の点は、呼吸するようにひそかにふくらんでは縮んだ。光そのものが生きている感じだった。光が飛び上がるところを父は掌てのひらを握にぎり、もう一方の手で私の指をひろげようとした。私はあわてて手を引っ込める。

「馬鹿ばかだな、熱くないよ。」

父はこういつて蛍を私の袂たもとに入れた。私は父に手を押さえられていたので逃げられなかった。気持ちの中で私は何度も飛び上がった。下駄げたの底が砂利じりにこすれて嫌いやな音を立てた。浴衣の袂が内側からほの白く発光しはじめた。私は腕うでを恐る恐る横に伸ばして袂を遠ざけた。母のところところに走りたいのだが、父に手首てくせを握られていた。背後で祖母と母とがやり取りをする言葉が届いた。

「田舎いなかには田舎のよさがあるものね。」

②「田舎っていうけど、それほどじゃないわよ。」

「十歩も歩けば田んぼでしょう。蛍がこんなに湧わくんだもの。」

「あと十年もたてば、このあたりはすっかり街になるわよ。蛍もきつといなくなるわ。」

水の流れる澄すんだ音が耳の奥おくに響ひびいていた。水のおいもした。闇やみをかきまぜるようにして母が懐中電灯かいちゆうでんとうを振ると、見渡すかぎりにならんでいる稲の列ががすかに見えた。稲は黄色い光を受けて水絵の具を塗ぬられたように青く輝かがいた。田んぼの水面を見えるか見えない

かほどに覆っている繁った葉のあちこちに、螢は光とともに呼吸していた。闇の中で人を呼ぶ声がした。螢狩りにきている家族がほかにもいるらしい。歩いていく先々を水音が追ってきた。

「団扇か箒を持ってくればよかつたなあ。」

父は私よりもいつも数歩前をいった。私は安定の悪い重い足を運んでいく。父はくさむらにしゃがんで螢を摘み、戻ってきて私の袂にいった。私の髪にたかった螢も指先で取って袂にいった。宙を舞っている螢を二匹一度につかんだ。私の片方の袂はたえず光を放っていた。袂から先に私の身体は闇に浮かんでいきそうだった。痛みが薄らぎ、下駄が足に馴染んできたのがわかった。

「ちよつと狭いけどくついで寝ましよう。家族なんだから。」

蒲団を敷きながら父は上機嫌さを失わず祖母に向かつて言った。六畳一間きりなので、祖母は土間の台所で寝間着に着替えてきた。カキ氷屋の旗を継いでつくった寝間着を母は着ていた。私と父の寝間着は手ぬぐいを継ぎ足してこしらえたのだ。私の浴衣は部屋の際に螢が逃げないようにそつと置いてあった。家の中には田んぼの湿ったにおいがたまっていた。水音まで連れてきたようであった。

「お母さん、本当に気が向いたらいつでも泊りにきていいんですからねえ。自分の家と思って。」

「やさしいんだねえ。」

「この人はやさしいことはやさしいわよ。取り柄はそれだけね。」

横から声を挟んできた母には取り合わず、父は蚊帳を吊りはじめていた。部屋の四隅に釘で留めてある四本の紐を伸ばしてひとつずつ輪と結ぶと、新緑色をした四角形の蚊帳が立ち上がった。もうひとつの家のようだった。かび臭い蚊帳のにおいが田んぼの夜風を追い払う。私は端をめぐって勢いよく蚊帳の中にはいった。

「いつもいつてるでしょう。虫がはいっちゃうわ。」

大声をだしたのは母だった。緑色の蚊帳越しに見ると、天井からさがった電球は小さな太陽のようだった。私は蚊帳の真中に仰向きに横になった。電燈が消され、祖母につづいて母と父とが蚊帳にはいつてきた。みんな手前でしゃがみ、おもむろに蚊帳の端をめぐっては

膝でずつてくるのだ。蚊帳と身体との間にはずいぶんすき間があるのだが、自分ではわからない。

「お祖母ちゃん特別歓迎の、我が家だけのショーだぞお。」

蚊帳の中に立ち上がった父は、そつと抱えてきた私の浴衣を思い切りよくひろげたのだった。端から順に祖母と母と私は横になっていた。二人で一枚の敷蒲団を使うのだ。オレンジ色の就寝燈がついているだけのほんやりした闇だったが、父が私の浴衣の袂を裏返しにして振っているのがわかった。

「光らないじゃないの。」

横になったままで母がいった。母の胸の響きが敷蒲団をとおして私の背中に届いた。

「螢だって休まなくちゃ疲れちゃうべ。光るのはきつと体力を使うんだ。」

父が私の隣に体を投げるようにして横になった。父と母とが交互につく息に、私ははさまれていた。

「やっぱり真暗にしないと駄目なのよ。螢だって用心しちゃうでしょう。」

少し強い調子でいう母の声に押されるようにして、父はそのまま転がって蚊帳の外にでた。

父は蚊帳の上に伸びあがって腕を伸ばし、ソケットのスイッチをひねった。カチツというかすかな音とともに重い闇が落ちてきた。

「静かに。」

再び転がりはいってくる父に向かつて、母は声を低めた。しばらくの間、私たちは沈黙の底で息を詰めていた。私たちの呼吸がひとつになる頃、螢も生気を戻すようにして呼吸をはじめたのだ。薄い青味を含んだ淡く小さな光が、蚊帳の天井のあたりでほのめいた。弱弱い息を開始しただけだったが、それはほのめいたに大きくなるという予感があった。息はふくらんでくる。ひとつだった光の点は、二つ三つと増えていき、六つ七つと数えられた。私たちは螢の光の明滅とともに息をしていたのだ。

「きれいねえ。」

ため息と同時にいったのは母だった。呼吸しているのは小さなこの家全体だ。母はつづけた。

「命を燃やしているのよ。小さな身体でこんなに燃やしたら死んじゃうわ。燃え尽きて死ぬから死体も残らないのかもしれないわねえ。」

祖母も父も黙っているので、ここには母しかいないかのようだった。蛍に代わって話していてもいいように、母の声はやまなかつた。

「死んだ人がこうして見に来てくれたみたいねえ。はい、大丈夫です、ご先祖様。うちはみんな健康で頑張ってますから。お母ちゃんにだっていつでもきてもらえますから。」

母が黙ると静かだった。蛍は相変わらず消え入りそうな光を放っている。私はそっとまぶたを重ねた。

「寝るべ。明日はまた働かなくちゃならないかなあ。」

父の声がして、今度は本当に物音が跡絶えた。耳の奥に水の流れる音がしていた。

(立松和平『蛍の熱』)

※1 蚊帳……部屋の中で、天上から吊るす目の細かいネット状のもの。夏、寝る時に蚊などを入れないように吊るもの。

出入りは、ネットの下からはうようにして素早くする。

2 就寝燈……寝る時につける小さなあかり。

3 ソケット……電球を差し込む部分。

問一 線 a、d の各文の説明として、適切でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア a の文の主語は「父は」で、「言った」が述語である。

イ b の文の主語は「祖母は」で、「着替えてきた」が述語である。

ウ c の文の主語は「寝間着を」で、「着ていた」が述語である。

エ d の文の主語は「においが」で、「たまっていた」が述語である。

問二 線①「私は何度も飛び上がった」とあるが、これは「私」のどのような気持ちの表れか。適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 父に手を引いてもらい、しかも蛍まで袂に入っているのでとてもうれしい。

イ 久しぶりに家族と蛍狩りができて、とても楽しくうきうきしている。

ウ 袂に蛍を入れられたので、父のそばから離れようとして嫌がっている。

エ 父は喜んでいて、袂に入れられた蛍はすぐ死んでしまいそうで悲しい。

問三 線②はだれの会話か。適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 私      イ 父      ウ 母      エ 祖母

問四 線③「痛みが薄らぎ、下駄が足に馴染んできたのがわかった」とあるが、この表現には心の変化も重ねられているように読めます。それを説明した次の中から、適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 蛍狩りに慣れ蛍の光に優しく包まれてなごんでいく「私」の気持ちを重ねている。

イ 少しずつ機嫌が良くなり「私」を優しくあつかうようになった「父」の気持ちを重ねている。

ウ 田舎を嫌っていた家族みんながだんだんと居心地よくなっていく気持ちを重ねている。

エ 「父」の上機嫌さにつられて「祖母」がいることに慣れてきた「私」や「母」の気持ちを重ねている。

問五 線④「我が家だけのショー」とあるが、これはだれのための、どういうことをするものですか。三十字以上四十字以内で説明しなさい。

問六 — 線⑤「私たちは蛍の光の明滅とともに息をしていたのだ」とあるが、この表現から感じられることとして適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 蛍が呼吸し光るのを見て、自分たちもまた生き物として呼吸していたことをあらためて知らされたという驚きを表現している。

イ 「あの時は確かに蛍がいた、きれいだったなあ」とつくづくと感じて感動していることを強調して表現している。

ウ 後からこの時の場面を思い出すとつかしく、「家族がいつしよだったなあ」と深く感動していたことがわかるような表現になっている。

エ 家族みんなが蛍の光るのを待ち、光る蛍を吸い込まれるように見ていたことに気づいたということが表現されている。

問七 — 線⑥「耳の奥に水の流れる音がしていた」とあるが、ここについて説明した次の文の空らんには、漢字二字の語を入れたい。

考えて書きなさい。

私たち家族が（ ）と一体になり、やすらかで幸せな気持ちで眠りについたことを表している。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

わたくしはずっと、自分の頭にいくらかひげ目を覚えて生きてきました。記憶力のよい人がいるからです。もの覚えがよいと学業の成績もよく、頭がよいとされます。それに及ばない自分をずっと恥じていたのです。

学校は知識を教えて、忘れてはいけない、とはつきりは言わないものの、試験をして、覚えていないと減点という罰を加えます。叱られるのはおもしろくありません。勉強し、覚えたことは忘れまいとするのですが、どうもよく覚えられないで、忘れてしまいます。自分で頭が悪いのだときめてしまい、記憶の努力も充分でなくなり、ひそかに記憶のよい人をあこがれるというわけです。エリートは頭のよい人、頭脳明晰①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺というのは記憶力のよい人、そう思い込むようになります。

そういう考えを疑うようになったときかけはコンピューターでした。これまで人間にしかできないと思われていたことを、コンピューターはどんどんこなして、人間のお株を奪い始めました。何よりすごいのはこのキカイの記憶力で、人間の記憶など比較になりません。覚えるのも速いし、いったん覚えたことを忘れることがない。キカイがこわれない限り、永久、完全の記憶です。これまで人間に決してできなかったことです。人間は記憶していても、すぐ思い出せないことがあります。コンピューターは再生も正確、迅速にやってくれます。

記憶のよいのが優秀な頭脳だとすると、コンピューターは世の秀才よりもはるかにすぐれていることになりました。これはおかしいのではないかとわたくしは考えました。やはり人間はキカイよりも大きな知力をもっていると考えるのがヒューマニズムだと思います。つまり、記憶ということだけで人間を評価するから、人間はキカイに及ばない、などというおかしなことになる、記憶万能は間違っていると考えました。コンピューターは無言でそういうことを教えてくれたように思います。

記憶万能の考えはなにも古くからの伝統がありませんから、ただ「記憶はダメだ」などと言ってみても何の役にも立ちません。人間にできてコンピューターにできないことがあるだろうか、あるとすればそれは何なのか。と考えるまでもなく、Aが浮び上がってきました。コンピューターは記憶は優秀ですが、ただそのまま保持しているだけで変化を与えません。それがよいところなの

です。人間はコンピューターと比べるとひどく哀れな能力しかもち合わせていません。どんどん忘れれます。

この忘却というところでは、人間はコンピューターの真似できない力をもっています。記憶力でコンピューターと競争するのは人間離れしています。いくら非人間的になってもキカイにかなうはずがありません。そうだとすれば、人間はキカイのできないところで勝負するほかはない、つまり忘却によって生きるしか手はないことになります。

**B** その忘却ですが、昔から、忘却をよい意味でとらえ、それを評価するということはなかったように思われます。記憶するのが文化創造の原理であるように思われてきました。反対に、記憶を失わせる忘却は悪ものです。悪ものは退治しなくてはなりません。忘却悪はいつしか常識となり、疑う人もありませんでした。

コンピューターの存在する現代には、記憶によって知識を保持することに以前ほどの価値がありません。コンピューターのなかった時代には、不完全な記憶が社会的に有用でしたから、近代の教育は挙げて知識の習得にかかりきりになりました。記憶力絶大なコンピューターがあらわれて記憶の権威はゆらいだはずですが、人はなお、それを認めようとしません。

それに似たことが、遠い昔にもあったはずですが、何のことかと言いますと、文字によってものごとを書き留めることができるようになった文字革命です。それまで語り部が記憶していたことが、史部によって文字にうつされました。やはり、記憶絶対の伝統は大きくゆらいだはずでした。文字で記録ができるようになって、記憶の負担はずいぶん軽減されることになり、**C**、安んじて忘却が許されるようになるはずでした。

ところが、そうはならず、忘却は相変わらず悪もの視され、人間文化の日陰ものの扱ひに変わりがありませんでした。人間の知的文化の歴史の汚点と言ったら、誇張になるでしょうか。

コンピューターの出現は、それ以来二度目の、記憶の解放、忘却の評価のチャンスというわけです。それなのに、世の賢人たちも手をこまねいているだけです。おかしいではないか、忘却を認知しましょう、さらに忘却をたたえる必要さえある、というのが、わたくしの素朴な主張です。

(中略)

忘却には、百パーセントということがありません。なんらかの意味で価値のあると思われるところを残し、虫食いのように部分的に忘れていくと言ってもよいでしょう。コンピューターは、百パーセント記憶して、部分的に忘れることはできません。

人間がコンピューターに勝てるのは、この選択的忘却です。どんな大型のコンピューターでも、選択的記憶もできませんし、考えられもしません。

一卵性双生児は、生物学的にはまったく同じであると言っていますが、成長するにつれて、個人差がはっきりするようになります。心理的に違った経験をしているからで、中でも忘却は重要な個性化の要因と考えられます。同じようにつくられたキカイでも、長い間使っているうちに、固有のクセがあらわれるようにはなりません。

何人かと同じ文章を読ませて、あとでそれを再現させてみると、人によって、覚えているところと、忘れたところが微妙に違うことがよくわかります。めいめい別々なところにアクセントを置いて記憶し、別々な無意識の網目をくぐらせて忘却しているためでしょう。だいたい記憶は画的です。何でも同じように記憶しようとしては、忘れるのはずっと個人的です。めいめいの好み、興味、利害、得失、気分の中からまった忘却スクリーンの間を記憶が通過します。関心に合ったものは、スクリーンのネットにかかって残り、あとは忘却されます。

同じことを経験し、学習しても、人によって記憶として残るものが同じでないのは、この忘却スクリーンが個人的なものであるからです。人の個性は、したがって、忘却においてよくあらわれることになりました。

そして、忘却が記憶と同じように大切であることをわれわれに示しているのです。

(外山滋比古『自分の頭で考える』)

※1、ヒューマニズム……人間的なことを尊重する思想。

2 語り部……物事を語り伝える人々。

3 史部……文書・記録の作成をする人々。

問一 A に入る言葉として適切なものを本文中から書きぬきなさい。

問二 B・C に入る言葉として適切なものを次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア たとえば      イ なぜなら      ウ したがって      エ それとも      オ ところで

問三 線①「疑うようになったきっかけはコンピューターでした」とあるが、筆者が「疑うようになった」のはなぜか、本文中の言葉を用いて五十字程度で説明しなさい。

問四 線②「記憶の権威はゆらいだ」の内容として適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 昔は不完全な記憶が社会的に有用であると考えられていたということ。  
イ 忘却悪がいつしか社会の常識となり、疑う人もいなかったということ。  
ウ 記憶によって知識を保持することに価値がそれほど感じられなくなること。  
エ 記憶絶対の伝統がゆらいだ結果、文字で記録ができるようになったこと。

問五 線③「それ以来二度目の」とあるが、「それ」とは何のことか、本文中から五字以内で書きぬきなさい。

問六 線④「選択的忘却」とはどのようなことか。適切でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 価値のあると思われるところを残し、部分的に忘れていくこと。  
イ 人によって、覚えているところと、忘れたところが微妙に違うこと。  
ウ 人はめいめい別々な無意識の網目をくぐらせて忘却していること。  
エ 興味や利害などのスクリーンにかからなかったものが忘却されること。

問七 線⑤「忘却が記憶と同じように大切である」とあるが、「忘却」が「大切」なのはなぜか、理由を答えなさい。

次の短歌を読んで、後の問いに答えなさい。

① パパがママをママと呼ぶときさみしくて食卓上の卵を掴む  
 (大滝和子『銀河を産んだように』)

② おもらしの後は黙禱するように壁に向かいてうなだれる父  
 (藤島秀憲『二丁目通信』)

③ ゆうぐれの電柱太し ベレー帽の少年探偵裏に隠して  
 (笹公人『念力図鑑』)

④ 脚あげて少女の投げし飛行機の高きコスモスの中にとどまる  
 (相良宏『相良宏歌集』)

※ 黙禱……無言のまま心の中で神仏に請い願うこと。

問一 ①の歌について、

- A 二つの「ママ」の違いを説明しなさい。  
 B この歌をよんだ時の作者の感情が読み取れる言葉を二つ書きぬきなさい。

問二 ②の歌について書かれた次の説明文の A、B に、適切な語を入れて文を完成させなさい。ただしそれぞれ後の語

群から一つ選び、記号で答えなさい。

説明文 自分の父です。厳しかった父。怖かった父。幼年期からの父親の像があります。それが今は「おもらし」という父の現実に真向かうのです。それは父にとって辛いことです。項垂れるしかないのです。父の思考はしっかりしていることが分かります。A が思いのままにならないのです。ポイントは「黙禱するように」という直喩です。おもらしを悔やむ父は、黙禱するように項垂れている。B の姿に見えたのです。崇高(けだかく尊いこと。また、そのさま。)な父の像が浮かび上がってきます。そして、壁に向かっていることが父の孤独感を深めています。

(加藤治郎『短歌のドア』)

- A 【ア】 時間      イ 身体      ウ 感情      エ 意識  
 B 【ア】 謝罪      イ 挨拶      ウ 疲労      エ 祈り

問三 ③の歌の説明としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ゆうぐれの光が、ものをほやかす不思議な時間と空間が描かれている。  
 イ 電柱が隠れている少年を、やさしくつつむ様子が描かれている。  
 ウ 歌集のタイトルのとおりに、ベレー帽の少年の普通では考えられない力がまじめに描かれている。  
 エ 少年探偵という言葉が過去や遠い昔をイメージして、作者や読者に少年時代を想像させている。

問四

④の歌から読み取れる情景として適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 少女の動と着地した飛行機の静を対比させた、美しいやさしい情景
- イ 人工の紙飛行機と自然のコスモス畑を対比させた、あざやかで楽しい情景
- ウ コスモス畑の花の色とぼつんとたたずむ飛行機の色を対比させた、さみしくはかない情景
- エ コスモスの高い場所に止まった飛行機と少女の小ささを対比させた、かわいくいとおしい情景

問五

①～④の歌のうち、倒置法とうちが使われているものを一つ選び、番号で答えなさい。

四

□には、ある動物の名前が入る。適切なものをひらがなで答えなさい。

- 1 □の手も借りたい
- 2 負け □の遠ほえ
- 3 □の威いを借るキツネ
- 4 能ある □はつめをかくす
- 5 □の頭も信心から

五

— 線部の平仮名を漢字に直しなさい。

- 1 ピンチヒッターにきようされた
- 2 変わったじゅもんをとなえる
- 3 予想外のろうぼうが飛び込む
- 4 小学生なりのふんべつがいる
- 5 物資をくうゆする

国語解答用紙

一

問一	<input type="text"/>
問二	<input type="text"/>
問三	<input type="text"/>
問四	<input type="text"/>

注意 ※の箇所には記入しないでください。

受験番号
氏名

※

問六	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
問七	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

※

※

二

問一	<input type="text"/>
問二	<input type="text"/>
問三	<input type="text"/>
問四	<input type="text"/>
問五	<input type="text"/>
問六	<input type="text"/>
問七	<input type="text"/>

問七	<input type="text"/>		
問四	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
問五	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
問六	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

※

※

三

問一	<input type="text"/>	
問二	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>
問三	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>
問四	<input type="text"/>	
問五	<input type="text"/>	

※

※

四

1	<input type="text"/>
2	<input type="text"/>
3	<input type="text"/>
4	<input type="text"/>
5	<input type="text"/>

※

五

1	<input type="text"/>
2	<input type="text"/>
3	<input type="text"/>
4	<input type="text"/>
5	<input type="text"/>

※

える